

Reference 16

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-046120

(43)Date of publication of application : 17.02.1992

(51)Int.Cl.

A61K 31/395
A61K 31/395
A61K 31/395
C12P 17/18
// C07D227/12

(21)Application number : 02-152099

(22)Date of filing : 11.06.1990

(71)Applicant : KYOWA HAKKO KOGYO CO LTD

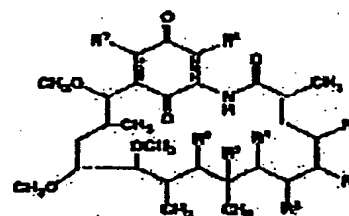
(72)Inventor : SANO HIROSHI
TAMAOKI TATSUYA
OMURA SATOSHI

(54) ARTERIALIZATION INHIBITING AGENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a low toxic arterIALIZATION-inhibiting agent containing a herbimycin derivative as an active ingredient.

CONSTITUTION: The objective agent contains a compound of formula I (R1, R2 are Cl, or both are bonded to each other, when R1, R2 are Cl, R3 and R4, R5 and R6 both are bonded to each other, R7, R8 are H; when R1 and R2 are bonded to each other, R3 is OCH3, Cl, R7 is H, group of formula II, R3 is H, Br, R4 is OCONH2, R5 and R6 form O or a bond together, or R4 and R5 form O-CO-O together and R6 is Br) as an active ingredient. The compound is useful for preventing or treating various diseases caused by the abnormal multiplication of blood vessels, such as rheumatic arthritis, diabetic retinopathy, immature baby retinopathy, senile macular degeneration and excessive cicatrix formation when wound is healed.



C1- <1

I

Ref. 16

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-46120

⑬ Int. Cl.⁵

A 61 K 31/395

識別記号

ABC
ABE
ABL

庁内整理番号

7475-4C

⑭ 公開 平成4年(1992)2月17日

// C 12 P 17/18
C 07 D 227/12

8931-4B
6701-4C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 血管新生抑制剤

⑯ 特 願 平2-152099

⑰ 出 願 平2(1990)6月11日

⑱ 発 明 者	佐 野	浩	東京都町田市玉川学園7-19-16
⑱ 発 明 者	玉 沖	達 也	東京都町田市本町田2662-13
⑱ 発 明 者	大 村	智	東京都世田谷区瀬田5-12-7
⑲ 出 願 人	協和醗酵工業株式会社		東京都千代田区大手町1丁目6番1号

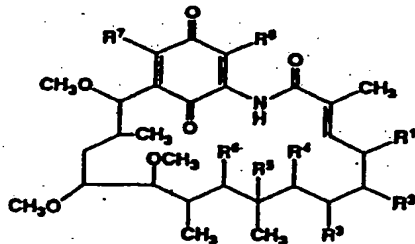
明 細 書

1. 発明の名称

血管新生抑制剤

2. 特許請求の範囲

一般式(1)



(式中、R¹およびR²はC₁または一緒になって結合を表わし、R¹およびR²がC₁の場合、R³とR⁴およびR⁵とR⁶はそれぞれ一緒になって結合を表わし、R¹およびR²はHを表わす。R¹およびR²が一緒になって結合を表わす場合、R³はOCH₃またはC₁を表わし、R⁴はHまたはNHを表わし、R⁵はHまたはBrを表わし、R⁶、R⁷およびR⁸は、R⁹がOCONH₂の

場合R³およびR⁴は一緒になって-o-または結合を表わし、R⁵およびR⁶が一緒になって-O-CO-O-を表わす場合、R⁷はBrを表わす。)で表わされるハービマイシン誘導体を有効成分とする血管新生抑制剤。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、血管新生抑制剤に関する。血管新生抑制剤は、血管の異常増殖によって発症する疾患、たとえばリュウマチ性関節炎、糖尿病性網膜症、未熟児網膜症、老人性黄斑部変性、創傷治癒時の過剰瘢痕形成の予防または治療薬として期待される。

従来の技術

血管新生抑制作用を有する物質としては、たとえばメドロキシプロゲステロン、硫酸化多糖体、牛軟骨粗抽出液などが知られており、またコージンとヘパリンの併用によって、血管新生を抑制することができることも知られている。

ハービマイシンはアンサマイシン系抗生物質に分類される抗生物質で除草活性、抗タバコモザイクウイルス活性およびP388ロイケミア、B16

メラノーマ、L1210 ロイケミア、ルイス・ラング・カルジノーマ、エーリッヒ・アサITES・カルシノーマなどを用いたマウス実験動物系において抗癌活性を示すことが知られている。ある種のハービマイシンの誘導体がエーリッヒ・アサITES・カルシノーマを用いたマウス実験動物系において抗癌活性を有することが知られている〔ジャーナル・オブ・アンタバイオティクス (J. Antibiotics) 37, 1264 (1984) ; 39, 415 (1986)〕。

また、ハービマイシン A およびその誘導体が癌化した細胞を正常の細胞に分化させることが知られている〔モレキュラー・アンド・セルラー・バイオロジー (Mol. Cell. Biol.), 6, 2198 (1986), ジャーナル・オブ・アンタバイオティクス (J. Antibiotics), 41, 831 (1988)〕。

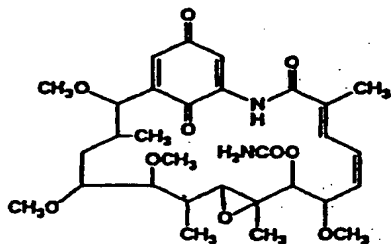
発明が解決しようとする課題

本発明の目的は医薬品として有用な新しい血管新生抑制剤を提供することにある。

を提供する。

以下に、化合物 (1) の具体例およびそれぞれの物理化学的性質を示す。

(1) 化合物 1-1



TLC R_f値: 0.51 (ベンゼン:酢酸エチル=1:1)

融点: 138℃

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = +126.0^\circ$ (c 0.5, CHCl₃)

紫外線吸収スペクトル: $\lambda_{max}^{CH_2OH} = 272$ nm (ε) 272 (23,900)

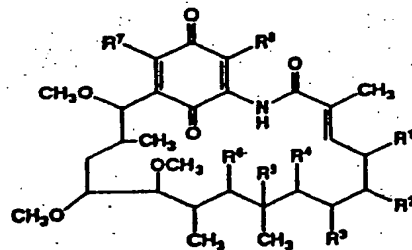
マススペクトル: m/z 590 (M⁺, C₃₀H₄₄N₂O₁₀)


水素核磁気共鳴スペクトル (CDCl₃, 中): δ (ppm)

6.98 (1H, dd, J=1.0, 11.5 Hz), 6.59 (1H, dd, J=2.0, 2.0 Hz), 6.46 (1H, dd, J=11.5, 11.5 Hz), 5.80 (1H, dd, J=11.5, 11.5 Hz), 4.56 (1H, d, J=

課題を解決するための手段

本発明によれば、一般式 (1)

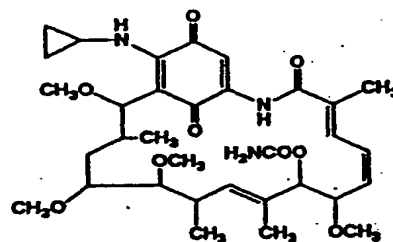


(式中、R¹およびR²は C₂ または一緒になって結合を表わし、R¹およびR²が C₂ の場合、R³とR⁴およびR⁵とR⁶はそれぞれ一緒になって結合を表わし、R⁷およびR⁸は H を表わす。R¹およびR²が一緒になって結合を表わす場合、R³は OCH₃ または C₂ を表わし、R⁴は H または NH- を表わし、R⁵は H または Br を表わし、R⁶、R⁷およびR⁸は、R⁶が OCONH₂ の場合 R⁷およびR⁸は一緒になって -O- または結合を表わし、R¹およびR²が一緒になって -O-CO-O- を表わす場合、R³は Br を表わす。) で表わされるハービマイシン誘導体を有効成分とする血管新生抑制剤

11.5 Hz), 4.17 (1H, s), 2.96 (1H, d, J=9.0 Hz),

1.33 (3H, t)

(2) 化合物 1-2



TLC R_f値: 0.60 (ベンゼン:酢酸エチル=1:1)

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = -138.0^\circ$ (c 0.2, CHCl₃)

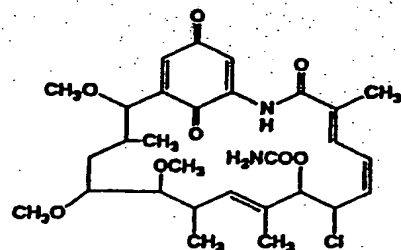
紫外線吸収スペクトル: $\lambda_{max}^{CH_2OH} = 245$ nm (ε) 245 (12,000)

マススペクトル: m/z 629 (M⁺, C₃₀H₄₄N₂O₁₀)

水素核磁気共鳴スペクトル (CDCl₃, 中): δ (ppm)

7.60 (1H, brd), 6.48 (1H, s), 4.48 (1H, brs)

(3) 化合物 I-3



TLC Rf値: 0.63 (ベンゼン: アセトン=7:3)

融点: 188℃ (分解)

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = +54^\circ$ (c 0.5, CHCl₃)

紫外線吸収スペクトル: $\lambda_{max}^{CH_2OH} nm(\epsilon)$ 232(18,500)

高分解能マスペクトル: m/z 578.239

(C₂₈H₃₀Cl₂N₂O₆としての計算値 578.239)

水素核磁気共鳴スペクトル(CDC₂中):

δ (ppm) 7.23(1H, d, J=2.3Hz), 6.60(1H, dd, J=2.3, 3.0Hz), 5.89(1H, dd, J=7.61, 1.6Hz), 5.80(1H, brs), 5.51(1H, qd, J=1.0, 7.1Hz), 5.10(1H, brd, J=7.6Hz), 4.50(1H, d, J=3.0 Hz), 1.66(3H, d, J=1.1Hz)

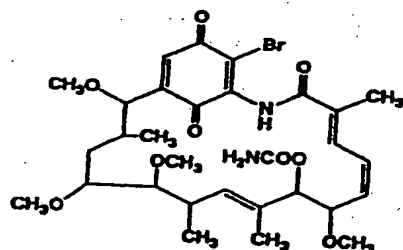
J=2.7, 10.6Hz), 4.66(1H, dd, J=2.7, 9.8Hz), 1.75(3H, d, J=1.3Hz)

元素分析: C 60.28, H 6.98, N 2.45, Cl 12.89

C₂₈H₃₀Cl₂N₂O₆としての計算値:

C 60.74, H 6.74, N 2.53, Cl 12.64

(5) 化合物 I-5



TLC Rf値: 0.45 (ベンゼン: アセトン=7:3)

融点: 178℃ (分解)

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = +93^\circ$ (c 0.5, CHCl₃)

紫外線吸収スペクトル: $\lambda_{max}^{CH_2OH} nm(\epsilon)$ 258(18,600)

水素核磁気共鳴スペクトル(CDC₂中):

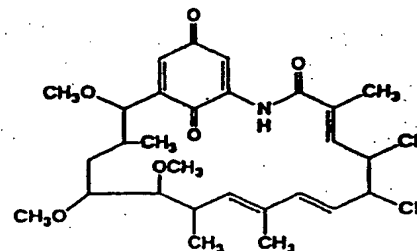
δ (ppm) 6.92(1H, d, J=0.9Hz), 6.42(1H, qd, J=1.1, 11.5Hz), 6.32(1H, dd, J=11.5,

元素分析: C 60.01, H 6.92, N 4.71, Cl 5.89

C₂₈H₃₀Cl₂N₂O₆としての計算値:

C 60.18, H 6.80, N 4.84, Cl 6.05

(4) 化合物 I-4



TLC Rf値: 0.80 (ベンゼン: アセトン=7:3)

融点: 199℃ (分解)

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = +99^\circ$ (c 0.5, CHCl₃)

紫外線吸収スペクトル: $\lambda_{max}^{CH_2OH} nm(\epsilon)$ 271(23,500)

高分解能マスペクトル: m/z 553.200

(C₂₈H₃₀Cl₂N₂O₆としての計算値 553.200)

水素核磁気共鳴スペクトル(CDC₂中):

δ (ppm) 7.33(1H, d, J=2.5Hz), 6.63(1H, dd, J=2.0, 2.5Hz), 6.55(1H, d, J=13.5Hz), 5.86(1H, dd, J=9.8, 13.5Hz), 4.99(1H, dd,

11.5Hz), 5.30(1H, dd, J=10.6, 11.5Hz),

5.28(1H, qd, J=1.0, 9.8Hz), 5.03(1H, d,

J=9.4Hz), 4.49(1H, dd, J=0.9Hz), 4.00

(1H, dd, J=9.1, 10.6Hz), 3.18(1H, dd,

J=1.8, 10.0Hz), 2.25(1H, m), 1.26(3H, d,

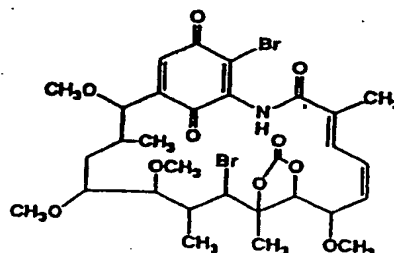
J=1.0Hz)

元素分析: C 54.89, H 6.32, N 4.26, Br 12.88

C₂₈H₃₀BrN₂O₆としての計算値:

C 55.20, H 6.34, N 4.29, Br 12.10

(6) 化合物 I-6



TLC Rf値: 0.84 (ベンゼン: アセトン=7:3)

融点: 132℃ (分解)

旋光度: $[\alpha]_D^{25} = +83^\circ$ (c 0.5, CHCl₃)

特開平4-46120(4)

ソニツト注射液に適當な界面活性剤と云はばTween®

80を助剤として加えこへ化合物(1)を溶解さ

せ、これを1~1000mg/kg、1日1~3回で静脈

内あるいは局所に投与する。

化合物(1)は血管新生作用を有し、ハービマ

インゾンAと比較して低毒性である。また化合物の

一部はハービマインゾンAが示すような既存の血管

に対して作用がないことから、血管の異常増殖に

よつて発症する種々の疾患たとえば、リュウマチ

性関節炎、糖尿病性網膜症、未熟児網膜症、老人

性黄斑部変性、創傷治癒時の過剰瘢痕形成などに

有用である。次に化合物(1)の毒性および薬理

作用について、試験例で説明する。

試験例1

急性毒性試験

6週齢、雄のD DYマウス(25±1g、1群

3匹)に、2%のアラビヤムを含む生理食塩水

に溶解した試験化合物を腹腔内に投与し、24時

間後の生存率から50%生存投与量(LD₅₀)を

上げ下げ法で算出した結果、化合物(1)はいす

またライオン+-(Rischert)の正確確立法により

p値を求めた。いずれのグラフもp値は0.05以

下であった。

その結果を第1表に示す。第1表に示したよう

に、本発明の化合物は、0.01~1.0mg/個の投

与で、有意な血管新生抑制作用が認められた。

試験例3

既存の血管に対する作用実験

10日目の野卵を用いて試験例2と同様にして

試験化合物を投与、培養し、腹腔内にすでに形

成されている血管に対する作用を調べた。既存の

血管の消失が観察されるものを、変化がないも

のをーとして第1表に示す。

紫外線吸収λ_{max}: 268(18,000)

水素核磁気共鳴スペクトル(CDC₂, 中):

δ(ppm) 7.28(1H, qd, J=1.2, 12.2Hz), 6.81(1H,

d, J=1.6Hz), 4.61(1H, d, J=7.3Hz), 4.47

(1H, s), 4.32(1H, d, J=9.4Hz), 2.32(1H, m),

1.63(3H, s)

元素分析: C 48.97, H 5.31, N 1.93, Br 21.69

C₁₀H_{8.8}BrN_{0.6}としての計算値:

C 49.24, H 5.38, N 1.92, Br 21.16

化合物1-1および1-2は特開昭63-218620

号公報に、化合物1-3~1-6はジ+ナール・

オア・アジキバキオキス(J. Antibiotics),

39, 415(1986)にそれぞれ製造法とともに記載さ

れている公知物質である。

化合物(1)は投与の目的および方法により、

常法により調製された錠剤、顆粒剤、粉剤、カプ

セル剤、シロップ剤、軟膏剤、クリーム剤、注射

剤などの形で投与することができる。とくに注射

剤の形で用いるのが好ましい。注射剤として用い

る場合、生理食塩水、ブドウ糖、ラクトース、ア

れもLD₅₀: >200mg/kgであった。

試験例2

胎受胎期の胎鼠腹腔内の血管新生に対する抑制作用

エヌ・グナからの方法(エクスプレス・リソナル・

パソロジー-Experimental Pathology) 30, 143

(1986)に従い、胎受胎期の胎鼠腹腔内の血管新生

に対する化合物(1)の作用を調べた。

10~20個の4.5日時の胎の受胎腔に小穴を

開け、胎鼠腹上に胎鼠ビニル+エチレン共重合体

(CEV40: 三井+アサヒ社製)に封入した試験化

合物を投与し、37℃で2日間野卵腔内で培養後、

10%のブタ油乳剤(イントラリポス (Intralipos):

ミリ+ナール社製)1ccを胎鼠腹腔内に注入し、胎鼠

腹腔内に新生される血管に対する試験化合物の抑制

作用の程度を観察した。

すなわち、血管形成の認められない領域が3mm

以上の胎鼠を完全抑制を示した胎鼠とし、抑制率

を次式で算出した。

$$\text{抑制率(\%)} = \frac{\text{完全抑制を示した胎鼠の数(個)}}{\text{全胎鼠数(個)}} \times 100$$

特開平4-46120(5)

実施例 注射剤

化合物(1-1)の200gをエタノール20Lに溶解した後、ミリポアフィルター(孔径0.22μ)で加圧ろ過して無菌化をおこなう。得られる無菌ろ液5.0mlを褐色バイアルに分注し、常法により滅菌乾燥し、50mg/バイアルの凍結乾燥剤を得る。

発明の効果

本発明により、医薬品として有用な新しい血管新生抑制剤が提供される。

特許出願人(102) 協和薬研工業株式会社
代表者 加藤 幸夫

表 1

化合物	投与量 (mg/個)	抑制率 (%)	既存血管に 対する作用
1-1	0.1 1 10	12 100 100	+
1-2	0.01 0.1 1 10	20 50 80 100	+
1-3	0.1 1 10	12 50 100	+
1-4	0.1 1 10	12 65 100	+
1-5	0.01 0.1 1 10	10 30 35 30	-
1-6	0.01 0.1 1 10	10 30 30 30	-
シラ	0.01 0.1 1 10	50 100 100	+

以下に本発明を実施例で示す。